

7. 水質関係（環境対策課）※令和元年度より環境課が主管

(1) 公害防止協定等水質調査

【黒磯地区】

公害防止協定及び覚書に基づき、市の立会いの下に事業主が事業場の排水又は付近住民の井戸水の水質を調査するものである。

◎株B S 那須工場排水調査

- ▽調査回数 年2回（4、10月）
- ▽調査対象 北側工場排水
- ▽分析項目 8項目
- ▽調査結果 各項目とも基準を満たしており、水質の異常は認められなかった。

◎株B S 栃木工場排水調査

- ▽調査回数 年2回（5、11月）
- ▽調査対象 工場排水
- ▽分析項目 5項目
- ▽調査結果 各項目とも基準を満たしており、水質の異常は認められなかった。

◎那須高原ハム(株)工場排水調査

- ▽調査回数 年4回（5、8、11、2月）
- ▽調査対象 工場排水
- ▽分析項目 6項目
- ▽調査結果 各項目とも基準を満たしており、水質の異常は認められなかった。

◎那須高原牧場(株)第3牧場付近井戸水質調査

- ▽調査回数 年3回（5、9、1月）
- ▽調査対象 10井戸
- ▽分析項目 10項目
- ▽調査結果 1つの井戸で色度と濁度の項目が5月と9月に基準値を超過した。それ以外は各項目とも基準を満たしていた。

◎那須グリコ乳業(株)工場排水調査

- ▽調査回数 年4回（6、9、12、3月）
- ▽調査対象 工場排水
- ▽分析項目 7項目
- ▽調査結果 各項目とも基準を満たしており、水質の異常は認められなかった。

◎クニミネ工業(株)黒磯研究所付近井戸水質調査

- ▽調査回数 年1回（6月）
- ▽調査対象 3井戸
- ▽分析項目 10項目
- ▽調査結果 1つの井戸で大腸菌の項目が基準値を超過した。それ以外は各項目とも基準を満たしていた。

◎那須ハイランドゴルフ(株)排水水質調査

- ▽調査回数 年4回5、7、10、12月（板室既設水道水源のみは年3回（5、7、10月））
- ▽調査対象 A調整池、B調整池、C調整池、河川合流後（沢名川）、板室既設水道水源
- ▽分析項目 13項目
- ▽調査結果 各項目とも基準を満たしており、水質の異常は認められなかった。

【西那須野地区】

公害防止協定及び覚書に基づき、市及び大田原市の立会いの下に事業主が事業場の排水の水質を調査するものである。

◎工業団地排水水質調査

- ▽調査回数 年12回(実施月は下記参照)
- ▽調査対象 工業団地総合水質検査池(4、5、7、8、10、11、1、2月)
蕪中川最終排水口(6、9、12、3月)
- ▽分析項目 15項目
- ▽調査結果 各項目とも基準を満たしており、水質の異常は認められなかった。

◎工業団地雨水排水水質調査

- ▽調査回数 年2回(8、2月)
- ▽調査対象 工業団地蛇尾川雨水排水口
- ▽分析項目 10項目
- ▽調査結果 各項目とも基準を満たしており、水質の異常は認められなかった。

◎工業団地内事業所工業排水水質調査

- ▽調査回数 年12回(毎月)
- ▽調査対象 23事業場(毎月)
- ▽分析項目 4項目
- ▽調査結果 (有)小貫光学工業所赤田工場においてBODが1回基準を超過した月があった。

公害防止協定及び覚書に基づき、事業主が事業場の排水の水質を調査し、報告を受けているものである。

◎カゴメ(株)工場排水調査

- ▽調査回数 年12回(毎月)
- ▽調査対象 工場排水
- ▽分析項目 3項目
- ▽調査結果 各項目とも基準を満たしており、水質の異常は認められなかった。

【塩原地区】

公害防止協定及び覚書に基づき、市及び大田原市の立会いの下に事業主が事業場の排水の水質を調査するものである。

◎セイコーNPC(株)工場排水調査

- ▽調査回数 年4回(5、8、11、2月)
- ▽調査対象 工場排水
- ▽分析項目 5項目
- ▽調査結果 各項目とも基準を満たしており、水質の異常は認められなかった。

(2) 事業場等水質調査

【黒磯地区】

板室地内の開発分譲地(黒磯観光開発(株))における排水処理場の排水を調査するものである。

◎事業場定期水質調査

- ▽調査回数 年2回(8、2月)
- ▽調査対象 処理場排水
- ▽分析項目 4項目
- ▽調査結果 各項目とも基準を満たしており、水質の異常は認められなかった。

【西那須野地区】

井口地内のアサヒ団地の排水を調査し、排水先の農業用水路の管理者である東部土地改良区に報告するものである。

◎アサヒ団地排水水質調査

- ▽調査回数 年2回(10、2月)

- ▽調査対象 団地排水口
- ▽分析項目 7項目
- ▽調査結果 10月の調査において、大腸菌群数の項目が基準値を超過した。それ以外は各項目とも基準を満たしていた。

(3) 河川等水質調査

【黒磯地区】

那珂川の河川水質を定期的に調査するものである。

◎那珂川水質調査

- ▽調査回数 年12回(毎月)
- ▽調査地点 4地点(那珂川橋、りんどう大橋、晩翠橋、昭明橋)
- ▽分析項目 5項目
- ▽調査結果
 - ・pHの基準達成率は、98%(前年度98%)で、ほぼ中性を保っている。
 - ・SSの基準達成率は、100%(前年度100%)で、水中の浮遊物質は少ない。
 - ・BODの基準達成率は、98%(前年度100%)で、水中の有機物の量は概ね少ない。
 - ・大腸菌群数の基準達成率は、42%(前年度48%)で、ここ数年は20%~60%の達成率で推移しており、環境基準を達成することは少ない。

【塩原地区】

箒川の河川水質を定期的に調査するものである。

◎箒川水質調査

- ▽調査回数 年12回(毎月)
- ▽調査地点 4地点(塚原橋、八汐橋、関谷地内、宇都野橋)
- ▽分析項目 5項目
- ▽調査結果
 - ・pHの基準達成率は、98%(前年度98%)で、ほぼ中性を保っている。
 - ・SSの基準達成率は、100%(前年度100%)で、水中の浮遊物質は少ない。
 - ・BODの基準達成率は、100%(前年度100%)で、水中の有機物の量は少ない。
 - ・大腸菌群数の基準達成率は、38%(前年度35%)で、ここ数年は20%~50%の達成率で推移しており、環境基準を達成することは少ない。

【黒磯・塩原地区】

那珂川及び箒川へ流入する河川水質を定期的に調査するものである。

◎那珂川箒川流入河川水質調査

- ▽調査回数 年1回(10月)
- ▽調査地点 13地点(木ノ俣川、板室湯川、沢名川、上黒尾川、下黒尾川、高雄股川、那須湯川、高野川、高野川合流後、シラン沢川、追沢川、鹿股川、滝沢)
- ▽分析項目 5項目
- ▽調査結果 13地点において大腸菌群数が基準を超過した。

(4) 農薬濃度調査

【黒磯地区】

那須ハイランドゴルフクラブで使用している農薬の影響を把握するために調査するものである。

◎河川水農薬調査

- ▽調査回数 年1回(6月)
- ▽調査地点 2地点(沢名川*乙女の滝、小沢名川*境橋)
- ▽分析項目 62項目(「ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止に係る暫定指導指針(環境省)」に基づく)
- ▽調査結果 エトキシスルフロン(除草剤)の成分が検出されたが、暫定指針値1mg/lに対し0.001mg/lの値であった。

(5) 水生生物による水質調査

河川に生息する生物の汚濁性から生態学の原則を応用し、那珂川及び箒川の水質状況を調査するものである。

【黒磯・塩原地区】

◎那珂川水生生物調査

- ▽調査回数 年2回（7月、1月）
- ▽調査地点 4地点（幾世橋、昭明橋、要害吊橋、宇都野橋）
- ▽評価方法 3種類（生物指数法、ZM法、優占種法）
- ▽調査結果

	生物指数法	ZM法	優占種法	総合評価
幾世橋 (7月)	β m s	o s	o s	o s
〃 (1月)	β m s	o s	—	o s
昭明橋 (7月)	o s	o s	o s	o s
〃 (1月)	o s	o s	o s	o s
要害吊橋 (7月)	β m s	o s	o s	o s
〃 (1月)	o s	o s	—	o s
宇都野橋 (7月)	α m s	o s	—	o s
〃 (1月)	o s	o s	o s	o s

※凡例

- o s …きれい（貧腐水性）
- β m s …少し汚れている（β 中腐水性）
- α m s …かなり汚れている（α 中腐水性）
- p s …極めて汚れている（強腐水性）

(6) 地下水水質調査

「那須塩原市地下水調査実施要領」に基づき、市内の地下水水質の汚濁状況を調査するものである。

◎地下水水質調査

- ▽調査回数 年2回（6月、2月）
- ▽調査地点 20地点（20井戸）
- ▽分析項目 17項目（「那須塩原市地下水調査実施要領」に基づく）
- ▽調査結果
 - ・環境基準（環境省）
各項目とも基準を満たしており、水質の異常は認められなかった。
 - ・水道水基準（厚生労働省）
6月の調査において、一般細菌の項目が2地点で、濁度の項目が1地点で基準を超過した。また12月の調査において、一般細菌の項目が1地点で基準を超過した。

8. 大気関係（光化学スモッグ対策）（環境対策課）※令和元年度より環境課が主管

「栃木県光化学スモッグ対策要綱」及び「那須塩原市光化学スモッグ対策要綱」に基づき、県と連携しながら光化学スモッグに関する対策に努めている。

- ▽発令基準 オキシダント濃度が0.12ppm以上になった場合、県から注意報が発令される。
- ▽予報期間 4月1日～9月30日（183日間）
- ▽予報回数 基本的には1日1回、午前10時30分頃に当日予報が発表される。状況によっては FAX などにより複数回連絡がある場合もある。
- ▽発令状況 県内の注意報は、計4日発令された。
地域別では、県南西部1回、県南部2回、県南東部0回、県中央部2回、県東部1回、県北西部0回、那須塩原市を含む県北東部は0回です。

9. 騒音及び振動関係（環境対策課）※令和元年度より環境課が主管

(1) 環境騒音調査

- ▽調査回数 年1回（11月）
- ▽調査地点 10地点
- ▽調査方法 24時間測定（30分毎に10分間）
- ▽調査結果

(単位：dB)

		昼間 (6:00~22:00)			夜間 (22:00~6:00)			備 考
		測定値	基準値	基準適合	測定値	基準値	基準適合	
道路に面しない地域	清住町	46	55	○	39	45	○	第1種中高層住居専用地域
	弥生町Ⅰ	49	55	○	38	45	○	第1種住居地域
	弥生町Ⅱ	42	60	○	40	50	○	近隣商業地域
道路に面する地域	前弥六	60	70	○	53	65	○	第2種住居地域 主要地方道53号 4車線
	塩原	61	70	○	56	65	○	商業地域 国道400号 2車線
	上赤田	66	70	○	59	65	○	準工業地域 国道400号 4車線
	西富山	69	70	○	69	65	×	準工業地域 国道4号 2車線
	黒磯幸町	63	70	○	57	65	○	商業地域 県道303号 2車線
	大原間	69	70	○	68	65	×	準工業地域 国道4号 2車線
	太夫塚	62	70	○	55	65	○	用途地域外 国道400号 4車線

(2) 新幹線騒音調査

- ▽調査回数 年1回（12月）
- ▽調査地点 2地点
- ▽調査方法 鉄道敷から25mの地点において、上下10本ずつ計20本に関して測定
- ▽測定結果

(単位：dB)

	測定値	基準値	基準適合	備 考
下厚崎	76	70	×	用途地域外
太夫塚	75	70	×	第1種住居地域

(3) 道路振動調査

▽調査回数 年1回(11月)

▽調査地点 10地点

▽調査方法 24時間測定(30分毎に10分間)

▽調査結果

(単位: dB)

	昼間 (8:00~20:00)			夜間 (20:00~8:00)			備 考
	測定値	基準値	基準適合	測定値	基準値	基準適合	
清住町	29	65	○	<25	60	○	第1種中高層住居専用地域
弥生町Ⅰ	<25	65	○	<25	60	○	第1種住居地域
弥生町Ⅱ	<25	70	○	<25	65	○	近隣商業地域
前弥六	35	65	○	31	60	○	第2種住居地域 主要地方道53号 4車線
塩原	<25	70	○	<25	65	○	商業地域 国道400号 2車線
上赤田	32	70	○	<25	65	○	準工業地域 国道400号 4車線
西富山	42	70	○	43	65	○	準工業地域 国道4号 2車線
黒磯幸町	30	70	○	<25	65	○	商業地域 県道303号 2車線
大原間	46	70	○	47	65	○	準工業地域 国道4号 2車線
太夫塚	38	—	—	31	—	—	用途地域外 国道400号 4車線

10. 自然保護対策事業、環境学習事業、環境美化事業

(1) 動植物実態調査（環境管理課）※令和元年度より環境課が主管

- ▽実施期間 4月～3月
- ▽内 容 市の希少野生動植物種の保護対策の基礎資料を収集することを目的として、那須塩原市動植物調査研究会委員による、市内に生息・生育する野生動植物の実態調査を継続して実施している。平成30年度は実態調査に加え、那須塩原市野生動植物種確認種目録の作成に向けた会議、事前調査等を行った。
- ▽委 員 25名（研究会委員（専門家）に委嘱）

(2) 環境企画展（環境管理課）※令和元年度より環境課が主管

- ▽日 程 ・10月13日（土）西那須野産業文化祭（にしなすの運動公園）
・11月10日（土）、11日（日）なすしおばらまなび博覧会（宇都宮共和大学那須キャンパス）
・2月17日（日）第14回消費生活と環境展（いきいきふれあいセンター）
- ▽テ ー マ みんなでまもろう！那須塩原市の生きものたち
- ▽来場者数 2,833名（環境企画展ブースへの来場者数）
- ▽実施内容 市内の希少野生動植物種や外来種を生体やパネル等を使って展示したほか、市動植物調査研究会委員を講師に招き、来場者に対して展示物等の解説を行った。
また、来場者数把握のためアンケートを実施し、協力者にはグッズ等の配布を行った。
○展示内容等
- ・レッドデータブックについて（パネル）
 - ・市内に生息・生育する希少野生動植物種について（パネル・生体）
 - ・外来種について（パネル・生体）
 - ・アンケートの実施
 - ・なすしおばらエコポイント制度のPR

(3) 消費生活と環境展（環境部門）（生活課及び出展した課・施設）

- ▽実施期日 2月17日（日）
- ▽場 所 いきいきふれあいセンター
- ▽主な内容
- *環境管理課
 - ・希少野生動植物や外来種に関するパネル展示
 - ・市動植物調査研究会委員による展示物の解説
 - ・「那須塩原市レッドデータブック2017」概要版及びエコポイントシートの配布
 - ・アンケートの実施
 - ・動物の命についての啓発
 - ・リーフレット配布、ポスターの掲示、ペーパークラフト（飼い犬、ねこが迷い子になったら）
 - ・子犬譲渡会のお知らせのポスター及び写真掲示
 - ・災害時のペット同行避難リーフレットの掲示
 - ・市作成のフン害防止プレートの展示
 - ・狂犬病についての紹介
 - ・あなたの犬はご近所から好かれていますか？
 - *環境対策課
 - ・3R及びごみ減量化、食品ロスに関するパネル展示
 - ・小型家電回収、ごみ分別アプリ及び市事業の紹介
 - ・機械式生ごみ処理機等PR
 - ・レジ袋削減に関するポスター、標語、マイバックの展示
 - ・不法投棄写真及び監視カメラ展示

- *下水道課
 - ・下水道普及啓発ポスターの展示
 - ・下水道及び浄化槽関連パネルの展示
 - ・浄化槽の模型の展示
 - ・「下水道いろいろコンクール」の標語の募集
 - ・ぬりえコーナーの設置
 - ・下水道・浄化槽簡易相談
 - ・トイレトペーパーとティッシュペーパーの溶解実験
- *エコライフネットワーク「とちぎ」
 - ・吸盤ボールを使った環境に関するゲーム（環境マークの紹介・啓発）
- *那須塩原環境ボランティアの会
 - ・那須塩原市の動植物の姿 写真展示、標本展示
 - ・会の活動紹介
- *げんごろうの会
 - ・那珂川の水生生物調査の結果の紹介
 - ・不法投棄「ごみ」ひろい活動報告
 - ・「げんごろうの会」の環境活動報告
 - ・環境関連資料の配布
- *（株）那須環境技術センター
 - ・那珂川等に棲む身近な水性昆虫の紹介
 - ・パネル及び実物の展示
 - ・顕微鏡での観察の実施
- *栃木県文具事務機器組合
 - ・エコ文具、事務用品
- *セイフティーライト推進委員会
 - ・光害に関するパネルの展示
 - ・光害体験コーナーの設置
 - ・星空の写真の展示
 - ・公害のビデオ上映
- *青木地区産業廃棄物対策委員会女性の会
 - ・高林地区の産廃処分場の現状等のパネル展示
 - ・会のリーフレット配布
- *K B E サービス(株)
 - ・廃食油（天ぷら油）からのろうそく作り及び展示
 - ・廃油の回収の実施
- *とちぎコープ生活協同組合（コープ西那須野センター）
 - ・「とちぎコープの環境の取組み」パネル展示
 - ・エコクイズ
- *My Eco Life（マイ・エコ・ライフ）
 - ・家庭用ごみ総排出調査実績
 - ・家庭用ごみ有料袋の使用金額実績
 - ・家庭用ごみの種類別総排出実績
 - ・地球温暖化防止パネルの展示等
- *NNY(株)
 - ・家電リサイクル法の紹介
 - ・正しい家電の処分方法の紹介
- *那須塩原クリーンセンター
 - ・クリーンセンターの紹介DVDの上映
 - ・再生品販売申込み
- *黒磯地区婦人会

- ・家庭内に眠っている古布・布等のリサイクル
- ・バッグ、ペットボトルを入れる袋等の作成・販売

(4) 那須塩原クリーンセンター見学（環境対策課）※令和元年度より廃棄物対策課が主管

- ▽実施期間 4月1日～3月31日（土日祝日は除く）
- ▽場 所 那須塩原クリーンセンター
- ▽テーマ ごみについて考える
- ▽見学者数 1,043名
- ▽内 容 那須塩原クリーンセンターの施設内見学

(5) 水生生物による那珂川水質調査（環境管理課）※令和元年度より環境課が主管

- ▽実施期日 6月21日（木）
- ▽場 所 昭明橋付近、晩翠橋付近、幾世橋付近 計3箇所
- ▽参加者数 8名
- ▽指 導 者 (株)那須環境技術センター分析部部長
- ▽内 容 水辺教室の一環として、水生生物による那珂川の水質調査を実施

(6) ホタル観察会（環境管理課）※令和元年度より環境課が主管

- ▽実施期日 7月12日（木）
- ▽場 所 二区町公民館及び二区町ほたるの里
- ▽申込者数 9名
- ▽指 導 者 ほたる水路保存会代表
- ▽内 容 講師によるホタルの生態についての説明及びビデオ鑑賞の後、現地にてホタルを観察した。

(7) 沼ッ原湿原植物観察会（環境管理課）※令和元年度より環境課が主管

- ▽実施期日 7月1日（日）
- ▽観察場所 沼ッ原湿原
- ▽参加者数 30名
- ▽講 師 那須塩原環境ボランティアの会会員（3名）
- ▽内 容 初夏の沼ッ原湿原の動植物について、講師の説明を受けながら現地で観察会を実施

(8) いきもの出張授業（環境管理課）※令和元年度より環境課が主管

- ▽実施期日 10月28日（日）
- ▽観察場所 那珂川河畔運動公園（那須野巻狩まつり本まつり会場）
- ▽参加者数 3,178名
- ▽講 師 公益財団法人ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）職員（2名）
- ▽内 容 自然環境や海洋生物等への興味・理解を深め、環境保全意識の高揚を図る目的で、3基の水槽を換装した専用車による移動水族館を開催した。海の生き物について、講師の解説を交えながら、見て触れるイベントとして実施。

(9) 那須塩原クリーンセンタークワガタ放虫会（環境対策課）※令和元年度より廃棄物対策課が主管

- ▽実施期日 7月19日（木）
- ▽場 所 那須塩原クリーンセンター
- ▽参加者数 30名
- ▽内 容 那須塩原クリーンセンターの発電電気を利用して、飼育室を定温で温室飼育し、クワガタの幼虫を通常より早く羽化させ、成虫にしたクワガタを関谷小学校全校の児童たちと施設周辺林に放虫

(10) 化石発掘隊2018 (那須野が原博物館)

- ▽実施期日 5月12日(土)
- ▽場 所 那須塩原市内
- ▽参加者数 31名
- ▽内 容 現地での化石の採集と博物館での講義・クリーニング作業を通して、大昔の生物に対する理解を図った。

(11) 企画展「なす昆‘18ー昆虫採集、まっ最中!ー」(那須野が原博物館)

- ▽実施期日 7月7日(土)～8月26日(日)
- ▽場 所 那須野が原博物館
- ▽参加者数 5,827名
- ▽内 容 昆虫の特徴やくらしぶり、特技などを住んでいる環境ごとに紹介した。また、昆虫採集のポイントをジオラマや体験型の展示と合わせて解説した。

(12) 昆虫教室 (那須野が原博物館)

- ▽実施期日 7月14日(日)、7月15日(日)【全2回】
- ▽場 所 那須野が原博物館
- ▽参加者数 15名
- ▽内 容 企画展「なす昆‘18ー昆虫採集、まっ最中!ー」の開催期間中、親子を対象とし、昆虫採集と昆虫標本づくりの体験教室を実施した。

(13) 那須塩原自然講座「昆虫のここがおもしろい」(那須野が原博物館)

- ▽実施期日 7月22日(日)、7月28日(土)、8月19日(日)【全3回】
- ▽場 所 那須野が原博物館
- ▽参加者数 77名
- ▽内 容 企画展「なす昆‘18ー昆虫採集、まっ最中!ー」の開催期間中、「水生昆虫」「カメムシ」「昆虫博士」にスポットを当て、各分野の第一線で活躍する研修者による講座を実施した。

(14) 市民一斉清掃 (環境対策課) ※令和元年度より廃棄物対策課が主管

- ▽実施期日 ・春 5月27日(日) ・秋 11月11日(日)
- ▽清掃場所 那須塩原市内
- ▽参加者数 ・春 20,785名 ・秋 16,422名
- ▽収 集 量 ・春 可燃ごみ 10,920kg、不燃ごみ 2,970kg (びん、かんを含む)
・秋 可燃ごみ 9,770kg、不燃ごみ 2,630kg (びん、かんを含む)

11. その他

(1) 那須塩原市版環境マネジメントシステム（地球温暖化対策実行計画【事務事業編】）の取組

（環境管理課）※令和元年度より環境課が主管

市では、平成19年2月に那須塩原市版環境マネジメントシステムを策定し、環境への負荷低減に向けた取組を行ってきた。

また、平成25年6月に『那須塩原市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】』、平成25年10月に那須塩原市地球温暖化対策実行計画【事務事業編】（第2期那須塩原市版環境マネジメントシステム）を策定し、平成21年度を基準年度とし、令和2年度（平成32年度）までに市役所の事務事業により排出される二酸化炭素排出量を25%削減することを目標としている。

① 管理単位の増減について

平成30年度において、市民活動センターが新たに環境マネジメントシステムの対象となった。

② 二酸化炭素排出量について（詳細は別表参照）

平成30年度の市役所の事務事業により排出される二酸化炭素排出量の合計は、8,912 t-CO₂であり、平成29年度の9,868 t-CO₂から約10%削減となった。

なお、内訳として、指定管理施設を除く市役所の管理単位の合計では、6,232 t-CO₂となり、前年度から約1%の削減となり、基準年度と比べると約18%の削減となっている。

③ グリーン購入割合・エコ通勤の実績について

平成30年度のグリーン購入割合は78%であり、前年度の72%から6%増加している。目標である90%に向けて更なる努力が必要である。

エコ通勤については、平成30年度の二酸化炭素排出削減量が234 t-CO₂であり、平成29年度の二酸化炭素排出削減量 780 t-CO₂に比べると減少している。